

製品名: AK6 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06716**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	20kDa

抗原情報

遺伝子名	
別名	TAF9; AK6; CINAP; AD-004; CGI-137; Adenylate kinase isoenzyme 6; ATP-AMP transphosphorylase 6; Coilin-interacting nuclear ATPase protein; hCINAP
遺伝子 ID	6880.0
SwissProt ID	Q9Y3D8
免疫原	抗血清はヒト KAD6 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

背景

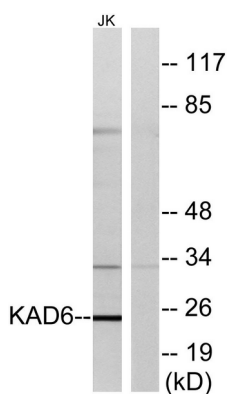
アデニル酸キナーゼ 6 (AK6) ホモサピエンス この遺伝子は、アデニル酸キナーゼファミリーに属するタンパク質をコードしている

す。このタンパク質は核に局在し、ウォーカー A (P ループ) モチーフ、ウォーカー B モチーフ、および金属配位残基を含みます。このタンパク質はカハール小体形成の調節に関与している可能性があります。ヒトにおいて、AK6 と TAF9 (遺伝子 ID: 6880) は 5' エクソンを共有する 2 つの異なる遺伝子です。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013 年 9 月]、細胞増殖の調節、クロマチン組織化、転写、DNA 依存性、転写開始、RNA 伸長、転写の調節、DNA 依存性、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写の調節、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写開始、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの RNA 伸長、タンパク質複合体の組み立て、タンパク質アミノ酸のアセチル化、細胞サイズの調節、生合成過程の正の調節、異化過程の調節、異化過程の負の調節、有機物への応答、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの特定の転写の調節、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの特定の転写の正の調節、高分子生合成過程の正の調節、高分子代謝過程の正の調節、高分子代謝の負の調節プロセス、遺伝子発現の正の調節、細胞死の調節、クロマチン修飾、共有結合性クロマチン修飾、ヒストン修飾、ヒストンのアセチル化、タンパク質分解の調節、細胞増殖の正の調節、細胞生合成プロセスの正の調節、細胞異化プロセスの調節、細胞異化プロセスの負の調節、細胞タンパク質代謝プロセスの調節、細胞タンパク質代謝プロセスの負の調節、プロテアソームユビキチン依存性タンパク質異化プロセスの調節、プロテアソームユビキチン依存性タンパク質異化プロセスの負の調節、細胞成分サイズの調節、遺伝子特異的転写の調節、RNA 生合成プロセス、サイトカイン刺激への応答、DNA 損傷刺激に対する細胞応答、増殖の調節、タンパク質異化プロセスの調節、タンパク質異化プロセスの負の調節、アポトーシスの調節、アポトーシスの負の調節、プログラム細胞死の調節、プログラム細胞死の負の調節、遺伝子特異的転写の正の調節、タンパク質アミノ酸のアシル化、高分子複合体サブユニットの構成、ヒストン H3 のアセチル化、転写の調節、細胞サイズの正の調節、タンパク質分解の負の調節、転写の正の調節、DNA 依存性、増殖の正の調節、核酸塩基、ヌクレオチド、ヌクレオチド、核酸代謝過程の正の調節、転写の正の調節、RNA ポリメラーゼ II プロモーターからの転写の正の調節、刺激に対する応答の正の調節、窒素化合物代謝過程の正の調節、タンパク質代謝過程の負の調節、RNA 代謝過程の調節、RNA 代謝過程の正の調節、染色体の構成、細胞死の負の調節、サイトカイン刺激に対する応答の調節、サイトカイン刺激に対する応答の正の調節、高分子複合体の組み立て、タンパク質複合体の生合成、応答インターロイキン-1、

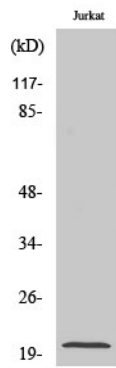
研究分野

基礎転写因子;

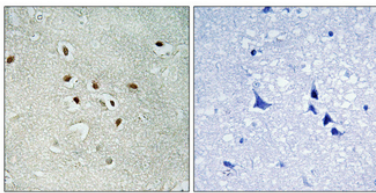
画像データ



KAD6 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



AK6 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。